

2023年度 決算のお知らせ

～特別勘定の現況～

【対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日】



5年ごと利差配当付一時払変額個人年金保険（年金原資保証型2012）

【超過給付金型】

この商品は、新規のご契約のお取扱いを停止させていただいております。

明治安田生命保険相互会社

ご契約の最新情報は

明治安田生命ホームページ

<https://www.meijiyasuda.co.jp/>

お問い合わせは

明治安田生命コミュニケーションセンター



ようこそ ハロー
0120-453-860

投資リスクについて

この商品は、一時払保険料の100%を特別勘定で運用し、特別勘定を構成する投資信託の運用実績等に応じて積立金、将来の年金年額等が増減します。そのため有価証券（株式や債券）の価格下落や為替相場の変動等により、投資信託の基準価額が下がった場合、積立金、解約返戻金が基本保険金額（一時払保険料）を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。運用に伴うリスク、成果はご契約者に帰属します。

- この商品の特別勘定の投資にあたっては、価格変動リスク、為替リスク、信用リスク、金利変動リスク等があります。

主な投資リスクについて

価格変動リスク	有価証券の市場価格の変動により、資産価値が変動し減少する場合があります。
為替リスク	外国為替相場の変動により、資産価値が変動し減少する場合があります。
信用リスク	有価証券の発行体の経営・財務状況の悪化により、資産価値が変動し減少する場合があります。
金利変動リスク	金利水準の変動により、資産価値が変動し減少する場合があります。

諸費用について

	項目	費用	費用の計算方法
据置期間中	保険契約関係費	特別勘定の資産総額に対して 年率2.70%	特別勘定の資産総額に対して 2.70%/365日を毎日控除します。
	資産運用関係費*1 (信託報酬)	投資信託の純資産総額に対して 年率0.253570%（税込）	投資信託の純資産総額に対して 0.253570%/365日を毎日控除します。
契約日から 7年未満の解約 (一部解約) の場合	解約控除	基本保険金額に対して 5.6%～2.0%	契約日からの経過年数に応じ、 基本保険金額（一部解約の場合は請求 額に応じて減額される基本保険金額）に 左記解約控除率を乗じた額を控除します。
年金支払期間中 (年金支払特約の 場合を含む)	保険契約関係費*2	年金年額に対して 1.0%	年金開始日以後、 年金支払日に控除します。

*1 資産運用関係費は、特別勘定の主たる投資対象の投資信託（国内投資信託）が外国証券へ投資を行なうため、国内投資信託の信託報酬と外国証券の証券管理費用を合わせた年率を記載しています。その他、運用に関連する費用として、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料、および消費税等の諸経費等がかかります（これら諸経費等は特別勘定を通じ、ご契約者は間接的に負担することとなります）。諸経費等は、投資信託委託会社等における運用により発生し、その運用方法によって変動するため、費用の発生前にその費用の額や割合等を提示することはできません。なお、資産運用関係費は、運用手法の変更等により将来変更される場合があります。

*2 年金開始日以後の保険契約関係費は、将来変更される場合があります。

ご契約者にご負担いただく費用の合計額は、上記「保険契約関係費」、「資産運用関係費」の合計です。なお、契約日から7年未満の解約（一部解約）の場合には、「解約控除」がかかります。

<解約控除率>

経過年数	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	5年未満	6年未満	7年未満	7年以上
解約控除率	5.6%	5.0%	4.4%	3.8%	3.2%	2.6%	2.0%	0.0%

運用方針

独自の「リスクコントロール手法」により、市場に対するリスクを調整し、安定的な投資効果の獲得を目指します。

◆特別勘定の名称・運用会社等

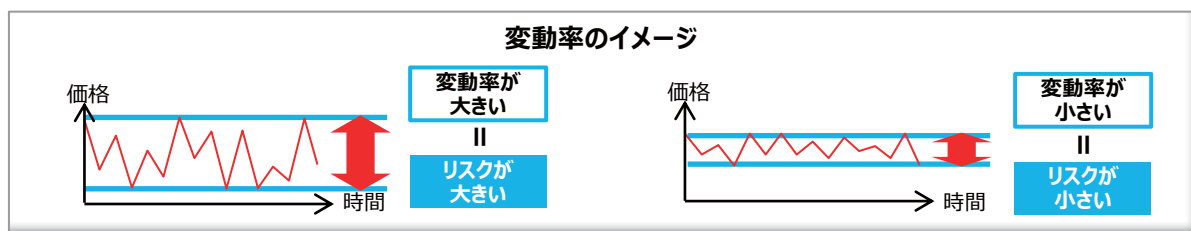
特別勘定の名称	組み入れる投資信託	運用会社	特徴
SG10世界バランス 2012	SGMYL リスクコントロール・ファンド VA2012（適格機関投資家私募）	ソシエ・ジェネラル・ オスマン・マネジメン 株式会社*	国内および海外の資産から構成される10種類の 資産を投資対象としており、個々の値動きのトレ ンドに注目して収益期待資産を選定します。

* リクソー投信株式会社は、2021年10月8日付でソシエ・ジェネラル・オスマン・マネジメン株式会社へと商号を変更いたしました。

◆「リスクコントロール手法」とは

- 市場環境に応じて、株式・債券・商品指数等による「収益期待資産」と「現預金等」の資産配分比率を機動的に見直すことにより、市場に対するリスクをコントロールします。
- 資産配分にあたっては、ファンドのリスクを「変動率（資産の値動き）」*で計測し、「収益期待資産」の変動率が高い場合は、「収益期待資産」への配分比率を減らし「現預金等」への配分比率を増やすことにより、ファンドのリスクをコントロールします。

*「投資対象の資産価格の変動」のことで、一般的に、変動率が高いことはリスクが高いと定義されます。



◆「リスクコントロール手法」のながれ

●「収益期待資産」を決定

「収益期待資産」は、価格の変動率が高い資産・小さい資産ごとに投資対象資産の値動きの大きさに注目し、定期的に見直し・選定を行います。

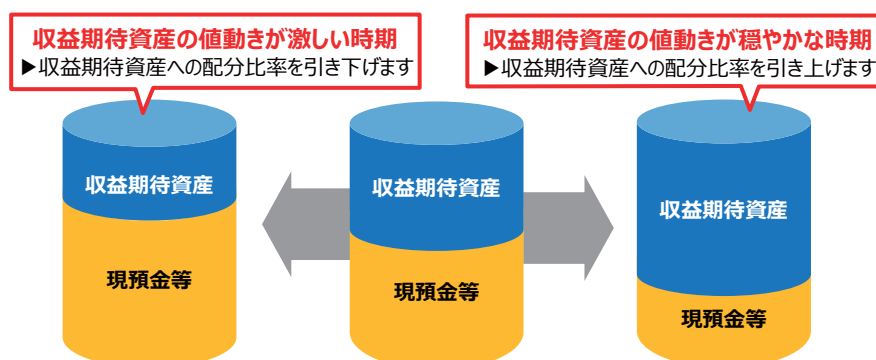
価格の変動率が 大きい資産	日本株式	米国株式	欧州株式	新興国株式
	商品指数	豪ドル建債券	カナダドル建債券	
価格の変動率が 小さい資産	円建債券	米ドル建債券	ユーロ建債券	

※ 米国株式、欧州株式、新興国株式、豪ドル建債券およびカナダドル建債券については、原則、為替ヘッジを行いません。

※ 商品指数、米ドル建債券、ユーロ建債券については、原則、為替ヘッジを行いません。

●「収益期待資産」と「現預金等」の配分比率を決定

「収益期待資産」と「現預金等」の配分比率は、「収益期待資産」の値動きに応じて決定します。



2018年4月に「収益期待資産」の決定方法を一部変更しました。

1. 市場概況

◆国内債券◆

国内債券市場では、長期金利は、日銀の許容変動幅の上限である0.5%近辺で推移した後、7月金融政策決定会合での許容変動幅拡大後は、0.9%台まで上昇しました。その後は、米長期金利に連れて低下しましたが、期末にかけては、日銀によるマイナス金利解除の決定や日銀のハト派姿勢継続から、レンジ圏で推移し10年国債利回りは前年度末差0.407%高い0.727%で引けました。

◆国内株式◆

国内株式市場は、東証改革や米著名投資家の日本株購入報道、インバウンド需要増加に伴う国内消費拡大への期待等から6月下旬にかけて大きく上昇。その後は米ソフトランディング期待や中東情勢緊迫化による地政学リスクの高まり等が交錯しレンジ圏で推移しましたが、年明け以降は新NISA開始や堅調な米経済、円安進行、デフレ脱却期待等が好感され、上昇基調で推移し、日経平均は前年度末差12,328円高い40,369円で引けました。

◆外国債券◆

米国債券市場では、長期金利はインフレ抑制を企図したF R Bによる追加利上げを受け、10月下旬にかけ上昇基調で推移した後、インフレ鈍化による早期の利下げ開始期待とF R B高官によるタカ派姿勢が交錯し上下に振られる展開となり、米国10年債利回りは前年度末差0.733%高い4.200%で引けました。

◆外国株式◆

米国株式市場は、年度前半は、F R Bによる追加利上げや中東情勢緊迫化による地政学リスクの高まり、ソフトランディング期待等が交錯し、上下に振れながら推移しましたが、後半にかけては生成AIブームや堅調な米国景気を背景とした良好な企業決算、底堅い個人消費、利下げ期待等から上昇基調で推移し、NYダウは前年度末差6,533ドル高い39,807ドルで引けました。

◆為替◆

為替については、日米の金融政策の方向性の違いやそれに伴う内外金利差拡大等を受けて円安が進行し、対ドルでは前年度末差17円88銭円安の151円41銭で終わりました。また、欧州でも同様に内外金利差拡大等を受けて円安が進行し、対ユーロでは前年度末差17円52銭円安の163円24銭で終わりました。

2. 保有契約高（2023年度末）

（単位：件、百万円）

区分	件数	金額
5年ごと利差配当付一時払変額個人年金保険 （年金原資保証型2012）【超過給付金型】	9,586	24,578

- ・年金のお支払いが開始された契約は含まれておりません。
- ・金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

3. 特別勘定資産の内訳（2023年度末）

（単位：百万円、%）

区分		投資信託		短期金融資産等		合計	
		金額	比率	金額	比率	金額	比率
0494	SG10世界バランス2012	24,510	99.1	226	0.9	24,736	100.0

- ・金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。
- ・比率は、特別勘定資産合計に対する割合です。また、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

4. 特別勘定の運用収支

(単位：百万円)

区分	0494 SG10世界 バランス2012
利息配当金等収入	－
有価証券売却益	－
有価証券償還益	－
有価証券評価益	16,044
為替差益	－
金融派生商品収益	－
その他の収益	－
有価証券売却損	9,429
有価証券償還損	－
有価証券評価損	5,359
為替差損	－
金融派生商品費用	－
その他の費用	－
収支差額	1,255

・金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

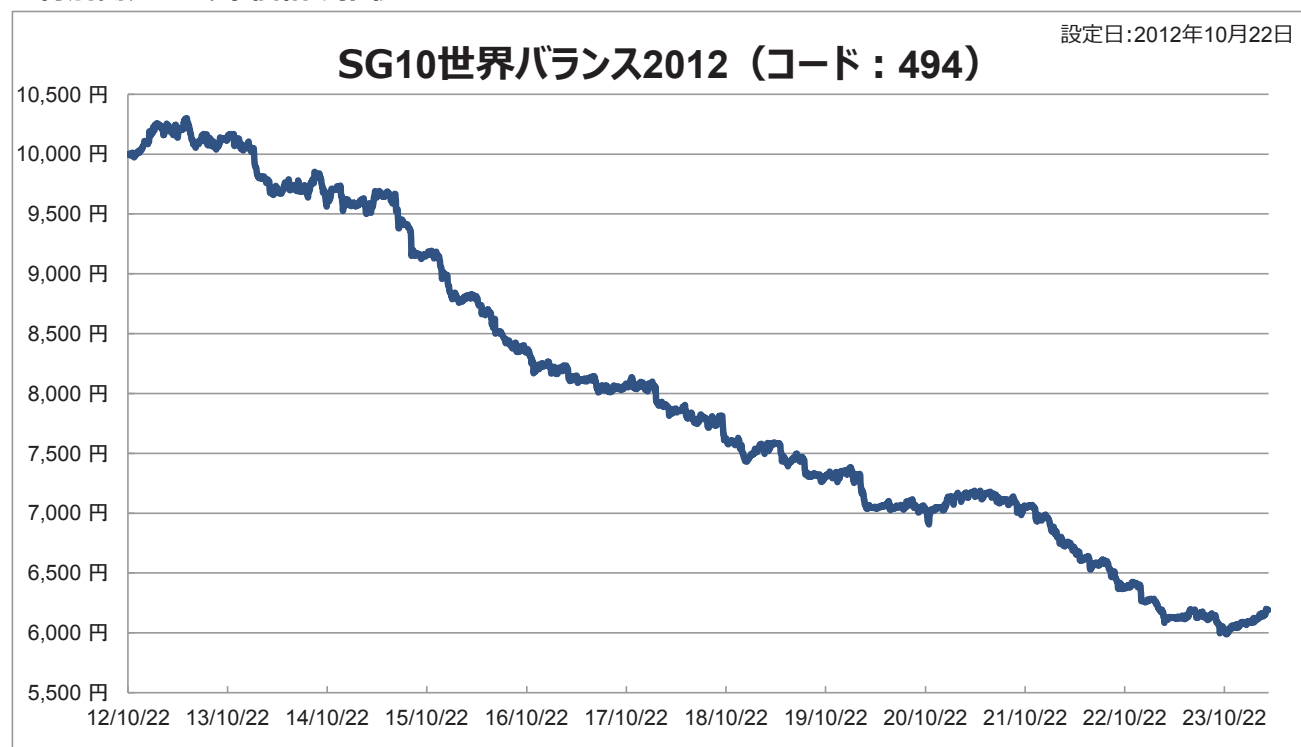
5. 特別勘定の運用実績

各特別勘定の運用実績につきましては、次ページ以降をご参照ください。

◆運用方針および運用の経過

- ・当該特別勘定の運用は、主として、追加型株式投資信託「SGMYLリスクコントロール・ファンドVA2012（適格機関投資家私募）」（設定・運用：ソシエ・ジェネラル・オスマン・マネジメント株式会社※）に投資することにより行ないます。組入比率については、高位で維持することを目指します。
- ・運用方針に従い、特別勘定への資金の動きに合わせて、投資対象とする投資信託への投資を行ないました。組入比率については、期間を通じて概ね高位を維持しました。また、今後も引き続き投資対象とする投資信託への投資を行なう方針です。
- ・特別勘定のユニット価格の変化率は直近1カ月で+0.73%、直近1年で+0.97%、設定来で-38.10%でした。

◆特別勘定ユニット価格の推移



ユニット価格変化率	直近1カ月	直近3カ月	直近6カ月	直近1年	直近3年	設定来	ユニット価格 (2024年3月31日現在)
	+0.73%	+1.68%	+2.01%	+0.97%	-13.53%	-38.10%	6,190.28968539

※「ユニット価格変化率」は、小数点以下第3位を四捨五入して表示しています。

お問い合わせ、ご照会は

募集代理店

引受保険会社

明治安田生命保険相互会社

本社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1

電話 03(3283)8111〔代表〕

ホームページ <https://www.meijiyasuda.co.jp/>